

いつも身近な存在でありたいと思っています

会宝通信 ~Kaiho journal~

第290号
発行日 2026年2月1日発行

チャレンジできる組織作りを目指して

こんにちは、社長の近藤です。先月の会宝通信で、「全方位シンカ」という今年の経営方針をご紹介させていただきましたが、それを実現させるためには、改めてチャレンジが必要だと実感しています。昨年の経営方針は「ピンチはチャンス チャンスはチャレンジ チャレンジはサクセス」というものでしたが、そのチャレンジの積み重ねがとても大切になります。

先日、執行役員に「昨年チャレンジしたこと」を聞いてみると、約40個の取り組みが報告されました。また社員からの改善提案についても、昨年は926件の提出がありました。一人ひとりが主体的に考える習慣が作ってきたと実感しています。

日本の同業者の皆様にご提案している会宝リサイクルーズアライアンスの取り組みは、おかげさまで加盟メンバー企業が123社になりました。昨年の1月には、当社が開発したECサイトであるePWをKRAメンバーに公開し、その後ご利用いただいておりまます。KRAメンバーの皆様と取り組むことで、出

品が増えてきたこともあり、8月には千葉県の八街市に新たな積み込み拠点を設けました。

またこの日本での取り組みをもとに、インドでもアライアンス展開をスタートさせました。それ以外にも、今までのコンテナ単位だけでなく、LCLという形での輸出も開始しましたし、中古リチウムイオンバッテリーの研究開発も進めております。

(LCLとは「Less than Container Load」の略で、日本語では「混載便（こんさいびん）」と呼ばれます。コンテナ1本を貸し切るほどではない少量の商品を、他の人の商品と一緒に1つのコンテナに詰め込んで運ぶ輸送方式のことと言います)

現状維持は退化の始まりであるという言葉を肝に銘じ、これからもチャレンジできる会社作りを目指していきます。

その他のチャレンジしたことについては、2月21日の感謝の集いで行う経営方針説明会でもご紹介したいと思っております。

キラリと光る存在

●今月の出番●
生産部 製造課
張 杉さん

こんにちは。生産部製造課の張杉と申します。昨年3月、53歳の私は、中国からスーツケースを引っ張って、再び会宝産業の玄関の前に立ちました。「再び」と表現したのは、18年前、私は会宝産業で3年間、技能実習生として働いていたからです。技能実習を終えて中国に帰国後、解体技術を磨き、今回は正社員として戻ってきました。再入社した翌朝、作業着に着替え、ヘルメットをかぶって工場に入ると、機械の音が聞こえてきて、懐かしい記憶が蘇って胸が熱くなりました。18年前にもいた課長は、私の肩を叩いて「しっかり頼むぞ」と言ってくださいって、また胸が熱くなりました。

以前と比べて驚いたことは、社員食堂ができていて、毎日美味しい昼食を食べられることです。これはとても嬉しい！その他にも、窓の外の木が大きくなっていたり、当時一緒に働いていた先輩は引退していたりと、見るもの聞くものが全て懐かしい気持ちを思い出させてくれます。時々、社員同士で昔話をする時があり、私にとってとても楽しい時間です。

以前と比べて仕事の内容も進化しているので、毎日が勉強ですが、仕事を終えて会社を出ると、一日がとても充実していると感じます。異国の地で安定した生活が送れることに感謝しています。

写真は、右が18年前、左が現在の私です。



農業の取り組み ~農業事業部より~



皆様こんにちは。1月は曇天、強風、氷点下の気温と北陸らしい冬の気候の日が続き、いくら暖房があるハウスとはいえ、トマトにとっては厳しい環境でした。そのような中でも多少なりとも光があれば、内張を開けて光を取り入れてトマトが赤くなる手助けをし、朝夕の換気でハウスの空気の入れ替えをして、カビや病気の抑制に努めていました。

1月も12月に引き続きトマトの収穫を続けています。上記の理由で春に比べれば収穫量はそこまで多くはないですが、それでもこの時期では十分なほど甘くて美味しいトマトが収穫できています。これから長い期間収穫を続けていくためには、今の時期の栽培管理（誘引、わき芽とり、下葉とり、追肥）が重要で、どれも遅れたりすると後々の生育に響きます。何事も先にできることは済ませ、来たる春からの繁忙期に向けて万全の状態で備えていきます。

2月後半からは天候が回復して日照量が増え、日中の気温が高くなる見込みです。生育が良くなる分、栽培管理の頻度は増えます。

細かな変化に注意し、適期の栽培管理を続け、トマトのためにできることを精一杯取り組んでいきます。（担当：畠中）



会宝農園の野菜は、こちらよりご購入いただけます。





From
INDIA

ナマステ！AKKの宮川です。

インドは、低い時には5度近くまで冷え込む一年で最も寒い季節ですが、その冬の終わりを告げる祭り「ローリー（Lohri）」が先日行われました。ローリーはインド北部、特にパンジャーブ州で毎年1月中旬に祝われ、冬の終焉と日照時間の延び、そして収穫への感謝を表す伝統行事です。

人々は焚き火を囲み、歌や踊りを楽しみながら、落花生やゴマ菓子を火に供えます。

インドは地域や宗教、文化ごとに祭りや価値観が大きく異なる多様性の国であり、ローリーも北インドならではの文化の一つです。

インドの多様な文化を理解し尊重しながら、インドの社員たちと共に、インドの持続可能な社会づくりに貢献していきたいと改めて感じる行事でした。



今月のパチリ



こんにちは。この度、会宝産業はJICA（国際協力機構）の「2025年度 中小企業・SDGsビジネス支援事業」に採択され、ブラジルにおける「自動車リサイクル人材育成を伴う法規準拠型製品管理システム導入に関するニーズ確認調査」を行うことが決定しました。

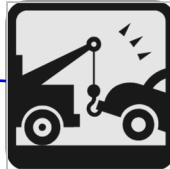
ブラジルは自動車保有台数8,800万台の中南米最大の自動車アフターマーケットです。当社は、2015年にJICA普及実証事業に採択され、ブラジル・ミナスジェライス州に自動車リサイクル教育センターを設立しました。今回の調査では、この教育センターで育成された自動車リサイクル事業者等に対して、現地の法規制に最適化した基幹システムとリユース部品の販売プラットフォーム(ECサイト)を提供することで、業務をDX化し、販路拡大と経営の安定を支援します。

ブラジルでは2024年以降廃車政策の強化などが進んでいますが、適切な処理技術や部品の流通管理が追いついていないという課題があります。この事業を通じて、ブラジル政府が進める廃車政策や脱炭素化に貢献するだけでなく、中小零細事業者の能力向上や社会包摂（誰もが産業の恩恵を受け、共に成長できる環境づくり）を促し、より多くの使用済み自動車の適正処理を実現します。写真はブラジルの自動車リサイクル教育センターです。

（担当：川村）



相場情報 ~生産部より~



2026年1月 見込み台数	
入庫台数	650台
処理台数	570台

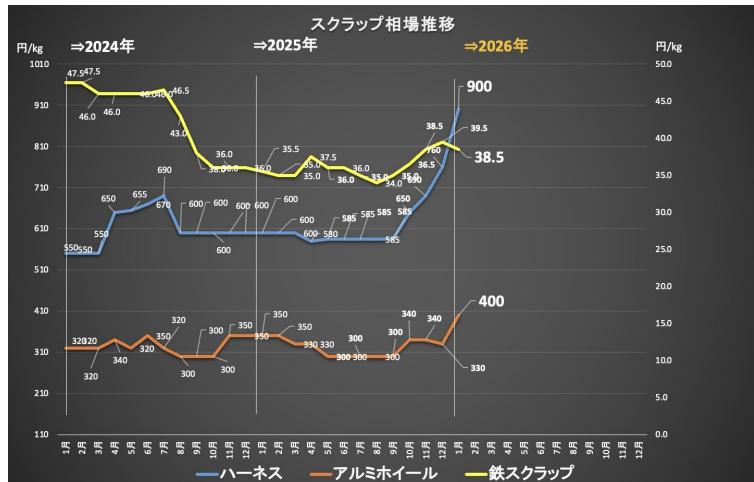
こんにちは、山口です。先月、北陸では雪が降りましたが、快晴で暖かい日もあり、昨今の環境変化を感じられる月でした。

さて、相場はと言うと・・・最近は貴金属類の高騰がニュースで騒がれていたりしますが、足元のマテリアルで見ると銅やアルミが高騰を続けています。

現在、国内での銅の需要は落ち着いており、メーカーが買い急いでいる状況ではありません。しかし、世界に目を向けると相場はこの1年で30%以上も跳ね上がっています。

この高騰の背景には、電気自動車（EV）の普及への期待だけでなく、世界的な「将来、銅が足りなくなるかもしれない」という不安（供給不足への懸念）があります。実際の需要以上に、「今のうちに確保しておかなければ」という市場の心理が、価格を大きく押し上げていると言われています。

期待よりも、安心を得る為にお金やモノが動く事は人間の心理かもしれませんね。



今月のトピックス

～今年の抱負～

多様性の時代ではありますが、日本人として大切にしたい考え方もあります。その一つが正月や年始という一月を起点とする考え方ではないでしょうか。初詣に行ったり、おせち料理を食べたり、家族や親戚で集まったりする中で、書き初めという文化もあります。

会宝産業では年初会議において、各自が色紙に書いてきた抱負をもとにスピーチをするという文化があります。一人ひとりが今年のテーマを持つだけでなく、それを共有することで、さらなるコミュニケーションの活性化に繋がっていきます。二階会議室にすべての色紙が掲示されていますが、ここでは一部をご紹介させていただきます。（担当：佐藤）



会宝産業
Homepage



車買取
Homepage



会宝産業
note公式
(毎週木曜日更新)



会宝産業
X (旧Twitter)



会宝産業
Facebook



車買取
Facebook



会宝産業
Instagram



会宝キッチン
Instagram



ご意見ご要望はこちらまで → TEL 076-237-5133 soumu@kaiho.co.jp (担当:川村)